

2022年12月 (No.402)

## 主な内容とページ

2022 年回顧 .....	1
米国の半導体戦略と日本の追随 .....	4
台湾、韓国、オランダは .....	4
日米半導体戦争での「漁夫の利」 .....	4
総合的な国家発展戦略を .....	6
22 年の M&A .....	6
ソシオネクストなど 3 件、22 年の IPO .....	7
見直された半導体(SRL だより) .....	9

---

## 2022 年回顧

国内外ともに大荒れの 1 年だったが、わが国半導体産業の再興への取り組みがみられた。

1. わが国半導体の再興策として昨年の外資による工場誘致に次いで技術面でも米国主体に国際連系する体制が確立された。
2. 米中の対立激化の環境下で、わが国は半導体で米国追随の姿勢を鮮明に打ち出した。台湾、韓国、欧州とは立場の違いもあり、複雑な環境下で日本の利益確保、拡大が望まれる。
3. 政府の打ち出した国際連携による半導体再興は、半導体そのものにとどまり、社会、産業あるいは生活などへの最終効果は不明。包括的な国家政策、指針が求められ、目標を共有し、それに向かって挑戦する環境づくりが不可欠だ。

## 見直された半導体

この1年、半導体をめぐって動きは、いろいろあったが、その一つは、半導体そのものが見直されたということではないだろうか。何が見直されたか、端的に言えば価値、なかでもネジや釘のようにいつでも豊富で使うことができるものではなく、供給の確保、安定性が大きな問題となり、それは年末でも尾を引いていることだ。

わが国は、大企業、買い手優先で世界の標準と異なった取引での慣例があったが、今回の半導体の品不足は、慣例が通用しない事態で、自動車、家電、精密機器など多くの半導体ユーザーが業績に影響を受けた。半導体は注文すればいつでも入手できるものから市況、在庫、生産動向など踏まえた調達に変わりつつある。

半導体は変化が速く、景気の変転も急。今回の見直しは定着するか、それとも市況が悪化したら元に戻るか、どうだろうか。様子を見る他ないが、私は、ある程度は戻るが、基本的には変わらないと思っている。先端品が市場で使われると普及品、成熟品も組み合わせられて伸びる。電気自動車、データセンターなどみられる動きだ。

(大竹 修)

本誌の内容一覧、索引は、SRL ホームページをご利用ください。

<http://www.semiconresearch.co.jp/>

この資料の複写、複製その他電子的な方法等によるいかなる形での複写利用をお断りします。この資料は公開されている文書および、社会的に信用ある企業、団体等の責任者によって公開された情報を SRL の解釈と分析で表現したものです。

2022 年 著作権所有 株式会社 SRL

**SRL Monthly Report**

2022 年 12 月 (毎月 1 回発行) 第 33 巻 12 号 (通巻 402 号)

発行元: 株式会社 SRL

〒188-0014 東京都 西東京市 芝久保町 3-1-35

TEL 042-439-5317 FAX 042-439-5023

編集・発行人/大竹 修

© (株)SRL 2022

**SRL Monthly Report**

December 2022, No.402

Semicon Research Ltd.

3-1-35 Shibakubo-Cho, Nishitokyo-City, Tokyo 188-0014 Japan

Mail: [info@semiconresearch.co.jp](mailto:info@semiconresearch.co.jp)

Publisher/Editor Osamu Ohtake

購読料金 1 年分 (12 号) 98,000 円 (税別) 107,800 円 (税込み)